

地域づくり表彰

シルバーふれあいサロンやまゆり（新潟県柏崎市）

全国でもめずらしい157名の
ボランティアが運営する直売所

やまゆり

責任者

青木 健



1. 柏崎市の概要

柏崎市は、日本海に面し新潟県の県のほぼ中央に位置する人口8万人弱の風光明媚な地域。柏崎刈羽原子力発電所を有しており、主に中小の製造業、観光産業などが中心となっている。

かつては宿場町として栄えた街も少子高齢化の波にのまれ、近年商店街ではシャッターが閉まったままの店が目立ってきている。



日本海から望む米山大橋

2. シルバーふれあいサロンやまゆりの概要

シルバーふれあいサロンやまゆりは、全国でも珍しい完全ボランティアによる運営の直売所。シャッターの閉まっていた地元えんま通り商店街の空き店舗を活用して平成18年4月にオープンした。オープン時120人だったボランティアは15年たった現在157名となっている。



やまゆり全景

開店は10時～15時で年中無休、ボランティアは毎日日替わりで午前4名、午後3名のローテーション。平均すると2週間に1度、半日から

いの出番だが、中には毎週出てくれる方もいる。

店頭に並ぶのはシルバー人材センターの会員が自宅で丹精込めて作った野菜や手作り作品などで、シニア層を中心に連日賑わっている。

この直売所が賑わいの核となって、以前は空き店舗が目立っていたえんま通り商店街に活気が出ており、最近では若い人たちの出店も相次ぎ、現在空き店舗無しとなっている。



開店時の賑わい

3. 持続性の維持

ボランティアによる運営に助けられ採算は何とか取れており、今後も賑わいの核として自主運営できる体制となっている。圧倒的なボランティアの数で個々の負担を軽減し、お互いに都合をつけあうことで運営母体に負担をかけることなく日々のルーティーンがしっかりと回っている。



イベントへの出店

4. 出品希望者やボランティアの広がり

この直売所に出品したいから、仲間になりたいから会員になる方も少なくなく、ボランティア希望者も微増傾向にある。また、野菜作りを習

いたいという希望も多いことから体験型農場「みんなの農場」を開設し、出品者のスキル向上、農福連携などに貢献している。そのため後継者不足や出品者の不足などにより継続不能になるという心配はない。



農場の開設

5. 地域資源の活用

やまゆりの店舗はもともとシャッターの閉まっていた洋品店に交渉し、安価で借りて運営している。また備品は市の粗大ごみなどを払い下げていただいて活用したため初期費用はほぼかかっていない。



地元の山菜も豊富に並ぶ

オープンの翌年に発生した「中越沖地震」で甚大な被害が出たにもかかわらず僅か3か月で再開を果たしている。この成果が地元商店街の復興の後押しにも繋がっており、内外から注目を集めている。



イベントで賑わう商店街

6. 体験型農場は耕作放棄地を活用

いままでは野菜を作ったことがない人や直売所に出せるような野菜作りを学びたい人向けに立ち上げた体験型農場「みんなの農場」は、地元農家が後継者不足などで放置していた耕作放棄地を借り受け運営している。地元農家は荒れ放題だった畑が活用されているため大変喜んでおり、使わなくなったビニールハウスやトラクターなども無償で提供してくれるなど、とても良い雰囲気で開催されている。



みんなの農場参加者

7. 運営維持のコツ

開店当時全国のチャレンジショップなどを調査した際、開店から数年で廃止に追い込まれている店が多いことに気づき、そうならないためにはどうしたらよいかということをメンバーで真剣に話し合い、現在の運営の形が出来ている。

店にレジは置かず誰でも簡単に店番の出来る「もぎり方式」にするなど、徹底的にボランティアの負担を軽減した。

農場をしつらえることで出品希望者のスキルアップの仕組みも作ったため野菜の品質も上がり、品ぞろえも増えた。



店頭に並ぶ新鮮な野菜

やまゆりに来る客層はほぼシニア層で、売っている商品もシニア向けの商品が多い。あえてスーパーマー

ケットのような万人向けの品ぞろえにせず、シニアが好む商品のラインナップにしたことでターゲット팅に成功した。また、店内にお茶やコーヒーを飲める談話スペースを設置し市民とボランティアの憩いの場所となっている。



シニアで賑わう店内

8. 商店街の振興と生きがいの創出

開店時にはちょっとした行列が出来ると、やまゆりに客足が途絶えないことから、賑わいの核として商店街振興会からは認識され、様々なイベントにも中心的な役割を担うようになった。

やまゆりに立ち寄ったお客様が商店街の他の店舗にも立ち寄る姿がみられ、商店街の活性化にも一役買っている。

その成果が評価され「キラッと光るよいお店新潟県知事賞（奨励賞）」「内閣府社会参加章」を受賞。さらに台湾における「熟年マンパワー就労国際実務シンポジウム」において事例発表を行っており、ボランティアのモチベーションに繋がっている。ボランティアの皆さんは口々に「ワクワクする」「楽しい」と言っており、この店そのものが「生きがい」の創出の場になっている。



店内で談笑するシニア

9. 農福連携と6次化

有機栽培を意識し地産地消を実現した体験型農場が出来たおかげで、地元の保育園や小中高校、特別支援学校などから農業体験の申し入れもあり、近年では障がい者支援団体とコラボした6次化にも取り組むなど、

食育やSDGs、エシカル消費などに特化した活動も顕著になってきている。売れ残った野菜をフードバンクに提供するフードロスの軽減や障がい者の就労機会を創出する農福連携にも取り組んでおり、その輪がどんどん広がっている。今後はオーダーメイドの出来る農場、直売所として研鑽をかさねていきたい。



農場体験の様子

やまゆり店内にはシルバー会員が丹精込めて作った新鮮な野菜の他、季節に合わせて手作りした手芸品や陶芸品が所狭しと並び、定期的に特売イベントなども開催されている。



店内に並ぶ福祉作品

また、市内の福祉作業所の皆さんが機能訓練の一環として選別袋詰めをしている「わけあり大豆」や障がいを持った方たちの手作り作品などもお預かりして販売を行っており、シニアだけにとどまらず「生きにくさを抱えたひとたち」すべての一助になるための「アンテナショップ」の役割もはたしている。

柏崎市の新庁舎に併設されている売店や、市内のレストラン、JAの直売所、大手スーパーなどからも声が掛かり、コラボ商品や有機栽培に特化した専用コーナーなどでの野菜販売も始まっており、元氣なシニアの夢の追及はとどまるところを知らない。